

南河内第二中学校区

令和5年度 小中一貫教育まとめ(令和4～5年度 2年目)

《長期ビジョン》

夢と希望をもち、たくましく未来を拓く児童生徒の育成

【目指す子ども像】

〈まなび〉主体的に考え、学び合いを通して互いに高め合える子ども
 〈こころ〉思いやりの心をもち、自他を大切にできる子ども
 〈からだ〉心身の健康に関心をもち、体力向上に励む子ども
 〈ちいき〉社会に貢献し、地域に主体的に参画しようとする子ども

【実践研究課題】

(伝える力の育成)

教育活動全体を通して、考えや気持ちを理解し、互いに認め合える子どもを育成します。

各部会の取組

＜授業研究チーム・国語部会＞

【児童生徒の実態】

知的好奇心が高く、学習意欲が高い。学習・生活両面で安定している児童生徒が多いが個別指導が必要な児童生徒もあり、学習に限らず学級経営にも工夫が必要である。興味・関心のあることについては積極的に発言できるが、集団や他の意見に対しては関心がやや薄く、話し合いながら課題を解決したり、学びを深め合ったりする力がやや低い。

【部会のねらい】

主体的に考え、考えたことを他者に分かりやすく伝えたり、他者の考えを受容しながら聞いたりすることにより、更に自分の考えを広げ深められるような「豊かな対話力」を育成する。また、「豊かな対話力」の土台となる「聴き合う力」の育成を目指す。

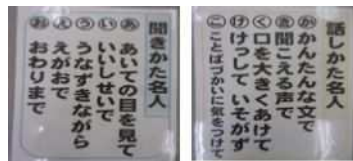
視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	①「豊かな対話力」の土台となり、「聞き合う力」を育成するための実践 ②「聴き合う力」を育成する、教師のコーディネート力向上のための情報交換 ③小中学校相互の授業参観及び授業研究会への参加
成果	①小学校では、「話し方・聞き方名人」、中学校では「話す力」「聞く力」についての掲示物を活用し、すべての教科・あらゆる場面で話すこと・聞くことについて意識させた。掲示物を使って教師だけが指導するのではなく、児童生徒同士も掲示物を見て声を掛け合う姿が見られ、分かりやすく話すことや、受容しながら聞く態度が少しずつ身に付いてきた。 ②ウィンバード上の掲示板を活用して各校の実践の様子を写真やデータで共有し、情報交換しながら自校の指導に生かすことができた。 ③S&Uなどの研修会において互いの授業を参観したり、各校で課題解決のために常時実践している内容について研修したりして、研修で得た成果や課題を指導に生かすことができた。
課題	・「話し方・聞き方名人」を意識することで、どのような学習の効果(学びが深まった、意欲が高まったなど)が得られるのかを児童生徒自身が実感できるような活用や指導の仕方を工夫する。 ・発達段階に応じて、「話し方・聞き方」「話す力」「聞く力」を焦点化して指導したり、児童自身が自分たちの言葉に置き換えたりしていくことで、身に付けさせたい。



5年生「聞いて、考えを深めよう」
自分たちの話し合いの様子をタブレットで確認している。(祇園小)

中学校の
「話す力」「聞く力」



全校で取り組んだ
「話し方名人」「聞き方名人」
(緑小)

<授業研究チーム・外国語部会>

【児童生徒の実態】

知的好奇心が高く、学習意欲も高い。しかし、他教科と同様に学力の二極化が見られ、小さい頃から英語に慣れ親しむ環境で育ってきた児童生徒がいる一方、英語に苦手意識をもち、聞くことや話すことに消極的な児童生徒も一定数いる。また、英語に関して豊富な経験を有する児童生徒でも、相手意識や目的意識をもったやり取りは、やや苦手な傾向がある。

【部会のねらい】

外国語科、外国語活動、英語活動において、主体的に考えや気持ちを伝え合う力を育成する。

視点	<A> 教育課程の工夫改善	 教育活動の連続性の確保	<C> 教職員間の連続・協働	<D> 家庭・地域との連携・協力
----	------------------	--------------------	-------------------	---------------------

取組	①英語を通した小中の交流授業を実践する。 ②単元計画において、必然性のあるやりとりの場の設定を工夫し、実践事例を持ち寄ったり、S&Uの授業を参観したりして学び合う。 ③「しもつけ未来学習」を積極的に活用する。 ④英語でコミュニケーションDAYについての情報交換を行う。
成果	・三校の教員が一つのことに向かって共に考えることができた。 ・交流授業では、中学1年生が小学校2校に分かれて出向くという形で、対面での実施ができた。お互いに小学校の一番の思い出を話すという場面を設定したが、無理のない内容であった。また、児童生徒の振り返りは、ほとんどが前向きなものであった。教員側も、連携のよさを子どもたちの姿で確認することができた。
課題	・小中交流授業のより効果的な持ち方(昨年度は、中2と小6がオンラインによる実施)について、さらに検討していく必要がある。 ・小小連携についても考えていく。 ・祇園小が授業を公開したが、他校の部会のメンバーが参観することが難しかった。

【小中交流授業の様子(R5.12.1)祇園小学校、緑小学校にて】



<心づくりチーム>

【児童生徒の実態】

知的好奇心が高く、学習意欲が高い。興味があることに主体的に取り組むが、集団に対しては関心がやや薄い傾向もみられる。集団との関わりが求められる場面で、協同的に活動に向かう意識、積極的に解決しようとする能力がやや低い。

【部会のねらい】

令和4年度から新たに設立の部門「心づくりチーム」は、「学級づくりチーム」と「道徳教育チーム」の活動を継承したチームの位置付け。2年目となる本年度は、以下の2点をねらいとした。

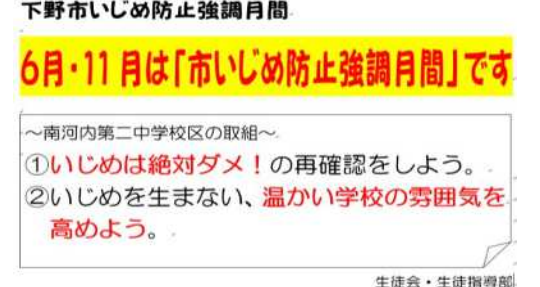
- ①二中学区の「心づくり」に関連する活動の、「見える化」に取り組む。
- ②二中学区の「心づくり」に関連する活動を、児童生徒及び職員に周知した上で実践し、その後の指導につなげる。

視点	<A> 教育課程の工夫改善	 教育活動の連続性の確保	<C> 教職員間の連続・協働	<D> 家庭・地域との連携・協力
----	------------------	--------------------	-------------------	---------------------

取組	・心づくりチーム版「教師用活動デザイン」を活用し、見える化した4つの取組(①市いじめ防止強調月間に合わせた、学級力向上アンケートの実施と分析 ②道徳教育における、カリキュラムマネジメントシートの活用〔地域連携、郷土愛〕 ③二中学区あいさつ運動の充実 ④読書活動の充実について、計画的に周知・実践する。
成果	・教師用活動デザインの活用。年度始めから「年間の見通しをもって活動」「各校で、教師の役割分担を明確にして活動」に取り組むことができた。 ・①市いじめ防止強調月間に合わせて二中学区共通の指針を作成した。特に「いじめを生まない、温かい学校の雰囲気高めよう」について周知した。また、学級力向上アンケートのねらいである「学級の良い所を伸ばす」視点を、「いじめの防止」につなげるように位置付けした。 ・②道徳教育における、カリキュラムマネジメントシートの活用。本地区の課題である「郷土愛」に視点をあてて、各校で道徳教育を推進・実践した。 ・③あいさつ運動では、出発前の中学生に「活動のねらいの確認」を行い、あいさつ運動実施後は、小中代表者からの一言を取り入れた。「ちょっとした工夫」で活動に「意味付け」と「深まり」をもたせた。 ・④各校で実施している読書活動の取組を、校務支援システム内の掲示板を通して共有することができた。また、小中のつながりをもたせる新たな取組として、「中学生によるおすすめ本の紹介」を実施した。
課題	①活動内容の精選と工夫 キーワード:「どう進めていけば？」 ・より望ましい活動の在り方については、毎年検討し工夫を重ねる必要がある。日頃各校で取り組んでいる内容に、「意味付けをもたせる」ことや、今後も無理なく継続できる取組が望ましい。 ②活動の目的の明確化 キーワード:「何のために？」 ・活動ありきではなく、ねらいを明確にし、ねらいの達成に向けての手立てとして活動を位置付けること。指導する教師に限らず、子ども達自身に「何をねらいとして活動するのか？」を示していくことが求められる。



↑ 教師用活動デザインで年間の取組が見える化



↑ 市いじめ防止強調月間に合わせた取組で意味付け



↑ 学級力向上アンケートの実施と分析



↑ 挨拶運動の充実に向けた工夫



↑ 道徳教育の充実に向けた取組を共有



↑ 読書活動の推進 魅力あふれる取組の共有

<健康チーム>

【児童生徒の実態】

- ・全体的に体力向上に対する意欲が低く、運動への関心において男女差がある。また、種目によっても児童生徒の意欲の高さに差が見られる。
- ・立腰指導は定着してきたが、その効果の理解では、不十分な部分がある。
- ・朝食を食べる児童の割合は高いが、内容に関して課題のある児童生徒が見られる。また、食べてこない理由として、生活リズムの乱れを挙げている児童生徒が多い。

【部会のねらい】

- ・体育での安全指導や身体の使い方、体力向上について、小中の発達段階に応じた指導を行う。
- ・朝食摂取の充実と身体作りの意識の向上を図る。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	①11月「体力向上月間」の実施、外遊び・持久走練習の奨励、体力向上ブースの運営、二中学区体操の実践 ②立腰指導、姿勢ストレッチの継続や各校の学校保健給食委員会参加による健康課題の情報共有 ③中学生による献立作成や朝ごはん毎日食べよう週間の継続、朝ご飯の呼び掛けの実践 ④「二中学区健康だより」の発行
成果	①体力向上ブース・持久走練習の時間を設けることで、運動習慣のない児童生徒の体を動かす時間確保ができた。また、小学校ではビンゴを取り入れることで、楽しみながら体を動かすことにつながった。ブースには、体力テストの結果を掲示することで、個々の目標が明確になり体力向上への意欲が向上した。 ②立腰への意識が定着した。また、その効果を伝えることで事後アンケートでは、意識の変容も見られた。 ③朝ご飯食べよう週間では、家庭への啓発にもつながった。 ④健康習慣の定着は、学校と家庭の連携した働き掛けにより、成果が現れるものである。学校での実践内容を、家庭へ伝えることで、家庭への意識向上につながった。
課題	・校内行事との兼ね合いをみて、体力向上月間は実施時期・方法の検討が必要である。 ・立腰への意識をより定着、習慣化させるため、年間を通して継続させる手立てや飽きさせない工夫が必要である。 ・中学生作成献立や、体力向上月間中の献立作成時の工夫、作成意図を伝え、残食を減らす工夫が必要である。

体力向上ビンゴ(小学校)



献立作成の様子(二中)



体力向上ブースの様子(緑小)



朝の立腰タイム(祇園小)



＜つながりアクションチーム＞

【児童生徒の実態】

知的好奇心が高く、学習態度は良好で、課題に対し熱心に取り組むことができる。また、礼儀正しく落ち着いた態度で生活をしている。急速に発展した新興住宅地であり、地域住民や保護者は他県や他地域出身の割合が高く、育成会や地域の伝統的な行事が少ないため、子供たちと地域とのつながりが薄い。

【部会のねらい】

地域やふるさとの良さを知り、地域の一員として年中行事やボランティア活動に主体的に参加し、地域とのつながりを感じ、愛着を育てる。

視点	＜A＞ 教育課程の 工夫改善	＜B＞ 教育活動の 連続性の確保	＜C＞ 教職員間の 連続・協働	＜D＞ 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	子ども未来プロジェクト	小中合同クリーン活動	小中学生と地域住民とのつながりがもてる企画
成果	・二中学区のいじめ防止のスローガンを作成することができた。さらに、そのスローガンを11月の下野市いじめ防止強調月間に合わせて掲示することができた。 ・小・中学校の成長段階にに応じて、いじめを取り上げた道徳や話し合い活動を行い、啓発できた。	・WinBirdの掲示板を活用したことで、やり取りが可視化でき、活動にまとまりがあった。 ・教員への意識付けがあり、小中の教員同士の関わりができた。 ・レクリエーションを行ってからクリーン活動を行ったため、スムーズに協力しながら活動できた。	・子ども未来プロジェクトや小中合同クリーン活動の他にも小中の音楽交流や南河内第二中の30周年記念の夏椿祭を通して、多くの小学生や地域の方々と交流することができた。
課題	・今年度はスローガンの作成と掲示がメインの活動になったが、今後は、子ども未来プロジェクトに小学生にも関わりを増やしていけるような取組を行いたい。	・小学生と中学生だけで、当日行えるような事前指導ができると良い。 ・小中合同の行事であり、外部の清掃業者も入るため、事前の連携・連絡・周知を早くするほど、指導する先生方も動きやすくなる。	・小中の地域連携教員と地域コーディネーターとの継続的な連携が必要。 ・来年度のつながりアクション部会でも、子ども未来プロジェクトと小中合同クリーン活動の2本柱として、小・中・地域連携を強化していく方向で検討していく。 ・地域の方々との交流する機会を増やしていけるように、既存の行事の活用を考えていく。



子ども未来プロジェクト会議(R5.7)



創立30周年記念夏椿祭(R5.10)



小中合同クリーン活動(R5.11)